

市立加西病院将来構想検討委員会 検討結果報告 意見書（概要版）

令和元年（2019 年）9 月

検討委員会設置の趣旨

日本は少子高齢化が進展し、将来的に医療需要の大きな変化が見込まれることから、地域ごとの適切な医療提供体制の再整備と地域包括ケアシステムの構築が求められています。こうした流れの中で、加西市における医療動向を踏まえ、市立加西病院のあるべき姿や機能・役割、建物の建て替えを含めた方向性を検討するための「市立加西病院将来構想検討委員会」を設置いたしました。

I 北播磨医療圏・加西市の現状

（1）加西市における患者の受療動向

➤ 医療需要予測

加西市は少子高齢化による人口減少が進展しており、65 歳以上の高齢者人口は 2025 年にピークを迎え、2045 年には人口の 45%近くが 65 歳以上になると見込まれています。

加西市における入院患者数の将来予測は、循環器や損傷といった高齢者に多くみられる疾患領域を中心に 2030 年頃をピークとして増加し、その後は減少していくと見込まれています。一方、外来患者数はこの先 10 年間で約 3%の減少が見込まれています。

➤ 入院患者の流出入

加西市における国民健康保険（以下、国保）加入者が市立加西病院で受診している割合は約 2 割に留まり、残りの約 8 割は姫路市や小野市をはじめとする他市の医療機関に流出しています。一方、後期高齢者は、国保加入者よりも多くの約 4 割が市立加西病院で受診していますが、やはり半分以上は他市の医療機関に流出しています。国保加入者の 1 日平均入院単価は、加西市と比較して、流出の多い姫路市、小野市、加古川市で高い傾向があり、医療密度の高い入院患者が加西市から市外に流出していると考えられます。

（2）加西市における救急車搬送の状況

加西市内で発生する救急車搬送は、市立加西病院が最も多い約 56%を受け入れており、北播磨総合医療センターと西脇市立病院を含めた 3 つの公立病院で全体の 9 割近くを受け入れています。市立加西病院は軽症の救急患者であれば、約 66%を受け入れています。中等症～重症の救急患者は半数以上が他市の医療機関に搬送されています。

Ⅱ 市立加西病院の現状

(1) 市立加西病院が提供している医療機能

市立加西病院は、加西市ならびに北播磨医療圏西部唯一の急性期病院であり、地域における2次救急医療をはじめ、小児・産婦人科における政策医療を担っています。近年、北播磨総合医療センターや加古川中央市民病院をはじめとする高度急性期医療を担う3次救急医療機関の開院に伴って、医療機関同士の機能分化が進み、広域の医療連携が行われるようになりました。

<施設概要(平成30年6月現在)>

開設者	加西市長 西村和平
管理者	北嶋 直人
許可病床数	266 床
標榜診療科	17 診療科
職員数	常勤職員 318 名
医療機関指定等	救急告示病院(二次救急指定病院) 臨床研修病院(管理型)
経営形態	地方公営企業法全部適用

(2) 市立加西病院の経営状況

市立加西病院の経営改善に対する取り組みにより、平成28年度から平成30年度にかけて、医業収支は改善していますが、依然として医業収支・経常収支は赤字の状況が続いています。

平成27年度から平成29年度にかけて、延べ入院患者数(病床利用率)及び延べ外来患者数は低下傾向にありましたが、平成29年度に地域包括ケア病棟を導入後、地域のポストアキュートやサブアキュートの入院受入を拡大する地域連携等の取り組みによって、入院患者数は平成30年度に改善が見られています。

(3) 市立加西病院の地域医療に対する取り組み

市立加西病院は加西市の地域医療を守るため、加西市民の健康に寄与するために、平成29年度以降で様々な取り組みを実施しています。

➤ 対外的な取り組み

- ✓ 地域広報誌(加西タイムズ)への掲載
- ✓ 病診連携の強化及びタウンミーティングの実施
- ✓ 地域医療機関への空床状況お知らせ
- ✓ 救急医療体制の充実

➤ 院内的な取り組み

- ✓ 病棟再編(地域包括ケア病棟及び在宅療養後方支援病院の施設基準を取得)
- ✓ 医療と介護の相談窓口設置
- ✓ ワンコイン検診の開始

Ⅲ 市立加西病院の将来方針について

(1) 市立加西病院の将来コンセプトについて

市立加西病院は、地域包括ケアシステムにおいて中心的役割を担い、加西市民から医療保健全般で信頼される地域多機能型病院となることを目指します。

ア. 急性期

- 主要疾患に対し2次救急機能までの保有、救急搬送の受け入れ、認知症などの高齢者へも対応した急性期医療の提供を行う。2.5次以上の救急機能に対して近隣の高度急性期病院と迅速な患者連携を行い、急性期医療の提供が効率的にできる体制の構築

イ. 回復期

- 近隣の高度急性期で受療した患者の回復期医療での受け入れ、ポストアキュート機能の提供。回復期病床の拡充、全疾患に対応したリハビリ体制の構築による受け入れ体制の強化
- 回復期病床は地域包括ケア病床とともに必要に応じて回復期リハビリテーション病棟運用の検討
- 在宅の患者の容態に応じた入院への受け入れ、サブアキュート機能の提供。医師会、介護事業者との連携体制の強化

ウ. 慢性期・介護機能

- 将来的に施設サービスが不足する際には、公営だけでなく民間運営も考慮した効率的な施設運営を前提とした長期療養・施設サービスの提供

エ. 外来・在宅機能

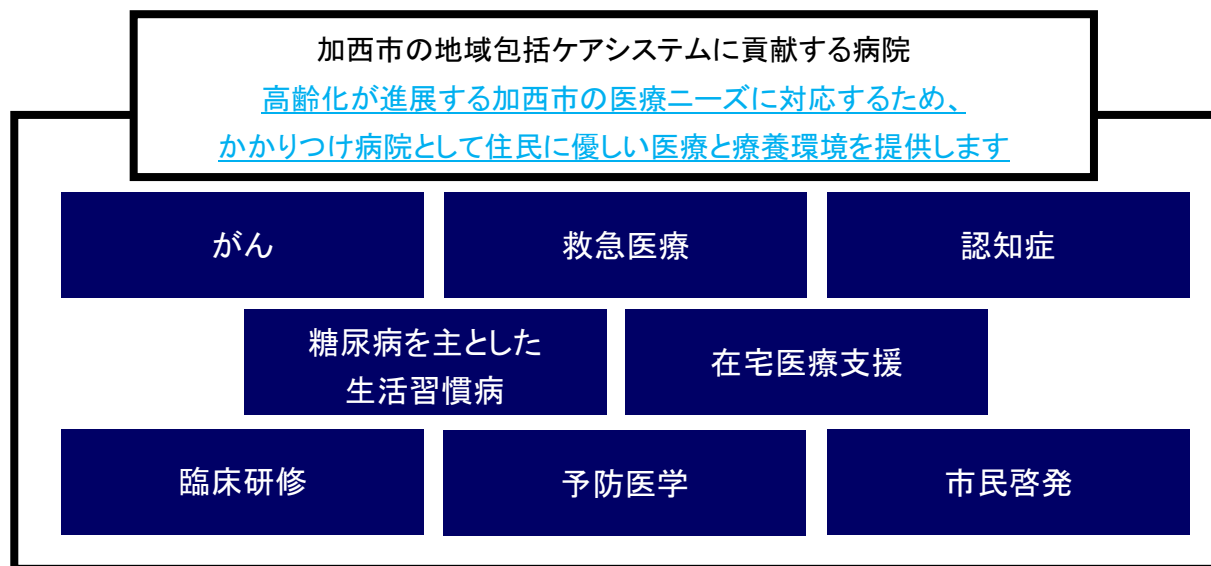
- 訪問看護、訪問リハビリを中心に、医師会と連携した在宅サービスの提供。地域の診療所、介護事業者との連携体制の強化、医療介護の在宅サービスの効率化
- 医師会と連携し外来体制の構築、不足診療科に対する加西市民のニーズに可能な限り対応

オ. 予防

- 市民の健康増進のための啓発活動や予防医療の提供。市と病院との連携強化や民間を含む事業者と連携をした健康管理、健康増進サービスの提供

(2)市立加西病院の目指す姿について

市立加西病院は、高齢化が進展する加西市の医療ニーズに対応するため、かかりつけ病院として住民に優しい医療と療養環境を提供することで、地域包括ケアシステムに貢献する医療機関を目指します。



■ がん

高度な治療が必要な場合はがん診療連携拠点病院（北播磨総合医療センターや西脇市立西脇病院）と連携することで、がん治療水準の向上を図り、手術等治療後のがんリハビリテーションや抗がん剤治療、終末期がん患者の看取りにも対応します。がん患者とその家族を身体的・精神的に援助できる体制を図るために、緩和ケア病棟の導入も検討します。その他がん患者や家族に対して相談支援や情報提供できる機能も備えることで、加西市におけるがん医療の充実に努めます。

■ 救急医療

心筋梗塞、肺炎や骨折外傷といった高齢者に多い疾患を中心に、緊急手術や入院が必要で迅速な対応が求められる二次救急医療を提供します。二次救急医療で対応できない、生命に危機が及ぶような高度な処置等が求められる三次救急医療の場合は、北播磨総合医療センターや新たに開院予定のはりま姫路総合医療センターと連携することで、地域における救急医療の充実に努めます。

はりま姫路総合医療センターと市立加西病院の立地を踏まえ、加西市の二次救急患者は市立加西病院での完結を目指すとともに、はりま姫路総合医療センターに入院し、急性期を脱した加西市民の患者は市立加西病院の地域包括ケア病棟で受け入れる等の連携強化に努めます。

■ 認知症

認知症患者とその家族が住み慣れた加西市で安心して生活するため、地域の医療機関や介護施設、行政等と連携を図りつつ、地域で認知症を支えながら、自宅での生活を維持するために必要な医療を提供できる体制を維持します。また、認知症疾患に関する鑑別診断、周辺症状と身体合併症に対する急性期治療、専門医療相談等の体制を強化するために、「認知症疾患医療センター（連携型）」の認定も選択肢として検討します。

■ 糖尿病を主とした生活習慣病

地域の医療機関と連携しながら、急性期治療が必要な患者に対する専門的医療を提供します。

■ 在宅医療支援

在宅後方支援病院として、在宅医療を担う診療所のバックアップ機能を提供します。

■ 臨床研修

総合的臨床力、救急プライマリーケアおよび地域包括ケアシステムにおける医療の役割を学べる臨床プログラムを提供します。

■ 予防医学

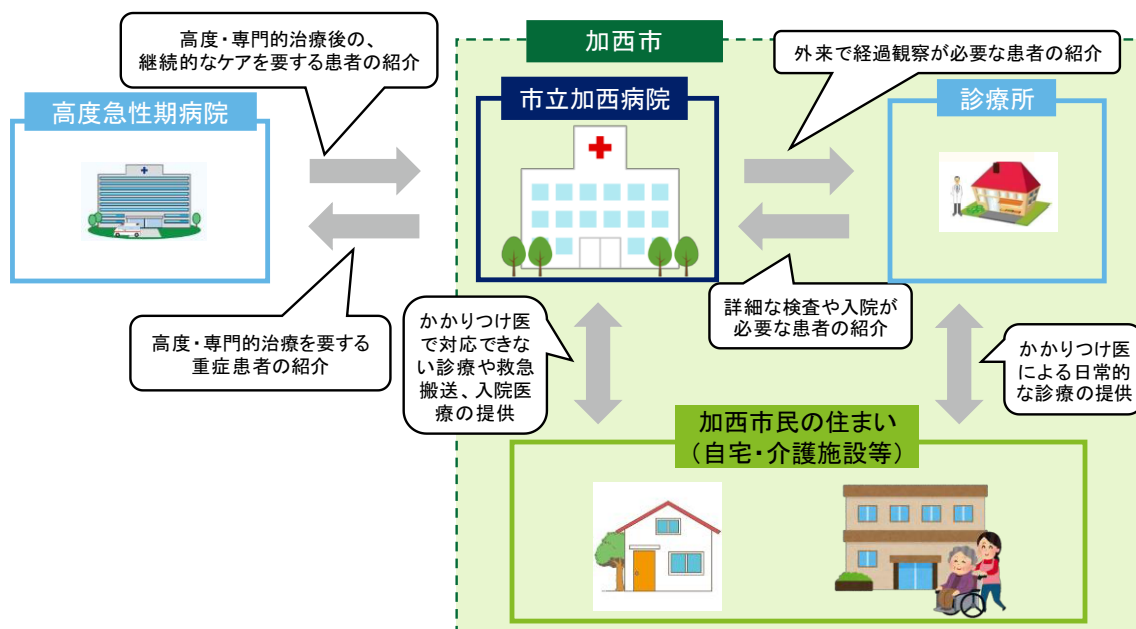
加西市と連携しながら、市民の健康診断や健康増進事業を推進し、健康寿命の延伸に寄与します。

■ 市民啓発

加西市と連携しながら、市民に対して健康や疾病、保健医療福祉制度等の理解および地域包括ケアシステムへの参画を推進します。

(3) 市立加西病院の医療連携について

市立加西病院は、地域の診療所のバックアップ機能、高度急性期病院との懸け橋の機能を中心に担います。



IV 市立加西市民病院の今後のあり方について

(1) 将来構想検討委員による検討結果

本将来構想検討委員会では、将来の市立加西病院の役割や経営安定に向けた取り組みを明らかにするため、市立加西病院の今後の将来構想について検討してきた。その結果、以下の方向性が最も望ましいと判断するに至りました。

【基本的方向性(総論)】

『高齢化が進展する加西市の医療ニーズに対応するために、現状の市立加西病院が有する急性期～回復期の入院機能は維持しつつ、病院の経営改善を進めると同時に、近隣の医療機関との役割分担の明確化・地域医療連携を強化する。また、近隣の情勢を鑑みながら、新病院の建て替え計画にも早急に着手する。』

【個別課題に対する方向性】

① 将来の担うべき医療機能について

高齢化が進展している加西市において、医療ニーズが高まっている、がん、糖尿病を中心とした生活習慣病、認知症、2次救急医療、並びに在宅医療支援を柱として掲げ、地域における役割を堅持します。

入院機能は現状の急性期機能と回復期機能(地域包括ケア病床)の病床を適正規模で維持します。また、外来機能はかかりつけ機能の中心的役割である地域の診療所との連携を基本とし、地域の診療所で対応できない場合は、市立加西病院で積極的に受け入れます。

② 広域地域連携について

広域での政策医療のより一層の充実を目指し、北播磨、東播磨、西播磨地区など従前の二次医療圏内での連携にとどまらず、それぞれの病院機能の相互補完をしつつ、各地域のニーズや医療従事者の早期育成の観点からも連携の強化を図ります。

③ 地域医療連携について

加西市(北播磨圏域)内外における医療機関との役割分担を明確化し、積極的な紹介・逆紹介を推進します。高度・専門的治療を要する場合は、加西市外の高度急性期病院に紹介を行い、高度・専門的治療後(ポストアキュート)は市立加西病院で継続的なケアを行います。また、地域の診療所から、詳細な検査や入院の必要性がある場合(サブアキュート)は市立加西病院で迅速に受入れ、状態が安定した後は、元のかかりつけの診療所に逆紹介を行う方針を徹底します。

④ 医師の育成と確保について

市立加西病院は急性期医療から地域医療まで、幅広い状態の患者さんの診療を通じて、実践的に学べる環境を活用し、研修医が救急プライマリーケアを体得できる臨床研修プログラムを堅持することで、将来の地域医療を担う若手医師の育成に貢献します。

また、加西病院サポーターの会との連携、院内における医師の働き方改革の推進等によって、働きやすい環境を整備し、医師にとって魅力的な職場環境を構築します。

⑤ 経営改善について

地域医療連携の強化等によって入院患者数を確保しながら、医業収益を最大化させると同時に、医業費用の適正化を継続的に推進します。材料費・委託費等は継続的に価格交渉を行うとともに、人件費は職員数に関して全国と同規模・同機能の病院とのベンチマーク比較を行い、退職者不補充を原則としつつ、世代交代を図りながら、退職者数と採用者数の調整を行います。また、診療科の統廃合等も通じて、経営面から見た医療提供体制の適正化を実現し、病院独自で将来に向けた投資を行えるような財政基盤の確立を目指します。さらに、中間管理職の育成をはじめとする、経営管理体制や組織マネジメント体制の強化も図ります。

⑥ 加西市との連携について

市立加西病院は加西市と緊密に連携しながら、加西市民の健康寿命延伸を最終的な目標とし、加西市健康増進計画による保健施策である健康診断やがん検診の受診率向上、市民一人一人が健康に対する意識を高め、生活習慣を改善できる環境づくりを支援します。そのためには、加西市民の病気に対する知識、日本の保健医療福祉制度の知識が得られるような学習の場を提供します。

⑦ 新病院の建て替え時期について

現状の市立加西病院は築後 40 年以上が経過しており、建物の老朽化が進んでいます。病院の経営改善を進めると同時に、近隣の情勢を鑑みながら、新病院の建て替え計画を早急に着手します。